

# 第1回 知立駅周辺整備計画検討委員会 議事録

日時：平成24年8月9日（木）  
午後2：00～4：00  
場所：知立市中央公民館 中会議室

		氏名	役職	出欠席
1	学識経験を有する者	磯部友彦	中部大学教授	出席
2	各種団体を代表する者	藤澤貞夫	知立市都市計画審議会会長	出席
3		新美文二	知立市商工会会長	出席
4		平澤信幸	区長会長	出席
5		塚本文雄	知立ライオンズクラブ会長	出席
6		坂田幸恵	地域婦人会連絡協議会会長	出席
7		風間勝治	知立市商店街連合会会長	出席
8		蔭山尚久	青年会議所理事長	出席
9		公募市民	東繁宏	公募市民（男性）
10	阪野嘉子		公募市民（女性）	出席

(オブザーバー)

- 愛知県都市計画課長（代理：片山 貴視、菅沼 克文）
- 愛知県都市整備課長（代理：横山 甲太郎、加藤 敬、近藤 一也）
- 知立建設事務所長 田中 義章（随員：大見 敬一）
- 安城警察署長（代理：金澤 重文）

(傍聴者)

1名

配付資料	1. 知立駅周辺整備計画検討委員会名簿 2. 知立駅周辺整備計画検討委員会設置要綱 3. 知立市審議会等の設置及び運営に関する取扱要綱 4. 第1回知立駅周辺整備計画検討委員会資料
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

○会議の公開について

・知立駅周辺整備計画検討委員会は、「知立市審議会等の設置及び運営に関する取扱要綱」に基づき委員会は原則公開とする。ただし、非公開情報を審議する場合は非公開とする。

1. 知立駅周辺整備計画検討委員会委員長の選任及び職務代理者の指名

・「知立駅周辺整備計画検討委員会設置要綱」に基づき、委員の互選により磯部委員を委員長に選任する。また、委員長より委員長の職務代理者として藤澤委員を指名する。

2. 知立駅周辺整備計画見直し素案の概要

・事務局により「第1回知立駅周辺整備計画検討委員会資料」を説明する。

<<質疑応答>>

- (藤澤委員) 市民の皆さんからは、30m 道路の見直しに関する声が一番多い。また、駅前の東西交通をどうしていくかという声を地域の方々から私はよく耳にする。
- (阪野委員) 人口は減っていく、まち全体の機能が縮小していくという、段々小さくなっていくまちをどう整備していくのか。知立市の新しいまちづくりと言われるものが、刈谷市等のように大型な施設を中心において活性化を図っていくのか、まち独自にあった改良・開発を行って全体的に活性化を図っていくのかなど、はっきり見えない。今後のまちづくりの具体の部分を教えていただきたい。
- (新美委員) 鉄道高架ですので、駅周辺のバス・自家用車等の時間帯別車種別の台数のデータ、乗降客の時間帯別の利用者数等は把握できているのか。また、人口については今後減少していくとあったが、それは全国的な話であって、この地域に関しては増えていくように感じている。そういった背景を踏まえた計画になっているのか。商工会という立場から、住む人だけでなく、知立市が発展していくためには経済がある程度力を持たないといけないと考える。その辺のことも考慮していただきたい。
- (磯部委員長) 駅周辺という狭い地域の計画であるが、市全体・もっと広い地域の計画の立場から見た時に、どういったまちづくりの方向性を考えていったらいいのかというイメージがないと何が必要かなど分からない。そのためには、過去～現在、できれば将来にわたっての所見（データ）が必要である。また、地域におとした時に、今までの元年構想のどこが悪くてどこを直すのかというストーリー立てを皆さんは欲している。
- (事務局) 配布資料 P1 の背景と目的というところで、元年構想で計画を進めてきた経緯があり、当時はバブルの絶頂期で全てが右肩上がりという計画が平成 10 年に都市計画決定されている。しかし、実際はそうではなく、右肩下がりとなっており、その当時の計画は過大となっている。それらを考えると、考え方・主旨は保ちながら、内容について実現性の高いものに変えていこうという素案を提案させていただいた。今の時代に合った、身の丈に合った計画が求められていると考える。  
データに基づいてというお話に関しては、人口については平成 42 年までは増加傾向、平成 42 年以降は減少に転じるという予測をしており、知立市においても、おっしゃられた通り、まだ伸びる要素はあると我々も感じている。駅周辺だけの人口が増えるかどうかは分からないが、知立市全体の人口が増えれば、活性化にもつながると考えている。また、他にも様々なデータを基に検証している。平成 21 年度に駅利用者の実態調査を実施している。その際に、駅利用者数、交通動態、企業バス等の細かいデータをとっている。
- (事務局) 平成 21 年度に調査をした経緯があり、駅前広場を利用する人の人数が 29,800 人という調査結果が出ており、そのうち企業バスを利用される方が 2,400 人となっている。企業に対してアンケートを行っており、どのぐらいのバスを出している、どのような委託を出して運行しているかなど調査している。今はデータを持ちあわせていないので、確認させていただき、また後日報告させていただきたい。
- (新美委員) バスが停まることを踏まえて、この駅前広場の図ができていくのかということに疑問を感じる。また、中心市街地の活性化を考えた時に、駅前にバスが来てすぐ電車に乗るというのは戦略的ではない。戦略的に歩かせて賑やかにするようなことも考慮して欲しい。
- (新美委員) 市営駐車場の裏辺りの地区（西新地地区）について、火災や防犯上の課題から開発できないかと平成 5 年頃から毎年検討してきているが、区画整理事業区域外ということで開発できない。この地区の人達も困っているし、駅前の地区になるのだから、西新地地区に駅前広場斜め対面に計画されている公園のエリアを変えることはできないのか。

- (事務局) 現在の区画整理区域の中で、公園・緑地の面積というのが決められているので、現在の区域の中で必要な面積と考えている。区域を変えてという話になると、今の駅周辺土地区画整理事業の区域について大きな見直しをしなければならない。
- (新美委員) 感覚的に、バスの大きさ、台数等のことが想定されていないような気がする。ただ単に、こういう風にしちゃったから、こうしますというように聞こえてくる。事業者や商店街の人達のことを考えた計画となっているのかと思う。
- (風間委員) 我々事業者は見直しに期待していた。これだけ区画整理事業等具体化した中で、一向に中心市街地のビジョンが見えてこないのが事業者の不安・いら立ちを生んでいる。元年構想では、そういう部分を見据えて、商業が市外に流出しないように食い止め、中心市街地を中心にやっ払いという経緯があった。事業者として、道路によって分断されている商業ゾーンの集積に拍車をかけている道路計画に対して批判等の改善要求がこれまでであったが、今回の見直しで若干は考慮されていると思う。しかし、これで全てが回避できるとは思っていない。ハード事業は、行政側が鉄道高架に合わせて、周辺整備計画を構築してきたことは理解できるが、その細部の部分で商業機能についてなど期待していた部分があった。今後、商店街にも説明していただける機会があるということなので、期待している。  
また、30m道路については車線数の変更だけであり、今更大掛かりな都市計画変更はなかなか難しいというのは理解できるが、通過交通だらけにならない広いエリアを道路形態としてとるのならば、公安協議も重要と思うがそれに見合う利用形態であれば周辺住民・商店街の方々も理解していただけると思うので、重要な課題であると考えます。  
高架下利用に関しては今からきっちり交渉していくべきと考えるのでよろしくお願ひしたい。
- (阪野委員) 電柱の地中化については検討していないのか。
- (事務局) 駅周辺土地区画整理事業の中で、知立南北線については計画に盛り込んでいる。現在それ以外の計画はない。
- (磯部委員長) 広幅員歩道の利用形態については、魅力ある空間になるのかなど一般市民に分かるようにする必要がある。
- (事務局) 残った幅員をどう活かすかというところは非常に重要な問題と理解している。停車帯についても企業バスの乗降、広幅員歩道についても歩行者、自転車、商業的にも十二分に検討させていただきたい。  
駅前広場斜め対面の公園につきましても、その広場をどう活かしていくのかということのも今後の課題であると捉えているので、活性化につながるよう検討、研究していきたい。
- (阪野委員) 本町郵便局の前に本町公園ができただけで大分変わった。集まる場所があると、市民が自然と集まり、コミュニケーションが生まれ、非常に重宝している。特に、駅の北側の地域には大きな公園がなく、公園の代わりにお店がコミュニティの場となって集まったりしているので、商業施設が一箇所に集中しているというのが必ずしもいいとは思わない。歩道の幅員が広くなるということであれば、木陰がもう少し大きくなると小さい子どもを連れた人や年配の方も歩きやすくなると思う。市民の方がどうまちを動くのか、どんどんまちに出てもらうというのをコンセプトにまちづくりをすると、健康にもよく、活性化にもつながるのではないかと考える。
- (平澤委員) ただ道を作るだけの計画ではなくて、市民によくなったと思ってもらえるような計画にして欲しい。新しくできた刈谷駅の南側のように、行きたいと思えるようなものが知立駅にもできるのか。そういったものも盛り込んでいただけるといい。
- (磯部委員長) 文学、歴史、宗教的なことなど、行政の立場で知立市としての魅力が書けないのなら、市民の方がこう言っていると行政としてうまく立ちまわってもらいたい。また、難しい話では

あるが、民間の方だけがんばってというのは辛いだろうから、行政と一緒に作った新しい魅力、施設というのが知立駅周辺の仕掛けとしてあっても違ってくると思う。魅力というのはいろんな方法で生み出すことができる。

(新美委員) このエリアはハード・ソフト一体的にやっていかなければならない。駐車場として使えるスペースを設けるのであれば、企業からお金をもらって、それを電線の地中化にまわすとかいろいろ知恵を出していかなければならない。道路に関しては当然車のことも重要であるが、人の回遊についての記載等もあれば、いろいろ考えていると感じられる。また、高架下の利用については、早期着手して知立市が主導権を握る必要があると考える。活用面・戦略面というものが見えないという感じである。

(事務局) 今は骨格づくりということで、元々の骨格を見直すという取組みを行っており、最終的にはどんなまちになるかというところが最終目標となる。現状としては、行政だけではなかなか難しい。

市民の皆さんのまちづくりに関する関心が高まってきたなかで、見直しを前提に検討を進めるということだが、現在の計画のコンセプトについてもご理解いただきたい。今、一番多い意見として、30m道路の必要性や東西交通をカットするという既存の流れに対する商業者の方々の不安である。なぜ30m道路を入れたかということ、鉄道高架により南北の市街地の立体化を図り、その主軸を知立南北線に置いている。駅前広場と公園とを併せた中心市街地のシンボルゾーンの形成、都市の防災的な観点からも必要であろうという考えである。鉄道高架により踏切が除去された場合、車の流れは知立南北線を主軸に置き換え、人が安心して界限できるゾーンは中央通り商店街を含めた東側のゾーンにしていこうというコンセプトで人が安心して歩けるまちを作っていくということで、知立南北線の計画、東西交通のカットがあった。この辺りの説明をもう少し丁寧に細かくする必要があったのではないかという反省点はあるが、2回目以降も重ねて説明させていただくので、またいろんな意見をいただきたい。まだ固まりきっていない内容もあるので、検討委員会と並行して進めていきたい。

(阪野委員) 知立南北線ができることで、豊田～刈谷間の通りぬけに使われ、通過交通が増えるのではないか。知立市としてデメリットではないのか。

(事務局) 将来通過交通が発生する可能性はあるが、歩道の整備等で安全対策はとれると考えている。将来を見据えて、メリットがあると考えている。

### 3. その他

- ・第2回の検討委員会は10月12日(金)午後2時から、知立市中央公民館中会議室で開催する。